

平成26年度アジア情報研修

中国・台湾の諸制度・統計を調べる イントロダクション

平成27年2月18日(水)
国立国会図書館関西館
アジア情報課 富田圭一郎

目次

- 1 本日の研修は
- 2 目的
- 3 諸制度と統計を一次資料・情報にあたって調べるとは
- 4 諸制度と統計を一次資料・情報にあたって調べる
メリット

1 本日の研修は

- 実習が中心です
 - 中国・台湾の諸制度と統計 (事実関係とデータ) を、一次資料・情報に当たって調べる 実習
- 相互に学び合います
 - グループに分かれて実習を行います
 - 午後には、調査方法などについて意見交換します
- 多様な属性の方が参加しています
- 皆様と共に作りあげる研修です

2 目的

- 皆様が、調査に取り組み、その方法を紹介し合い、何かを新たに「発見」すること
- ✓ 調査方法だけでなく、各機関の得意分野、他の属性の人の情報行動など
- 調査方法は、講師が紹介した以外にも、利用可能な情報源と時間によって様々あります
- 皆様からのご発言をお待ちしています。全員にとって新たな「発見」のきっかけとなります。

3 諸制度と統計を一次資料・情報にあたって調べるとは

- 諸制度と統計は

中国・台湾に限らず、各国の事情を調べる際に把握しておくべき基礎的な情報(事実関係とデータ)

- 一次資料・情報とは

ある機関や個人が刊行・発信したオリジナルなもの
他人によって編集・加工されていないもの

- 世の中に流通している情報

一次情報と二次情報があります

3 諸制度と統計を一次資料・情報にあたって調べるとは

種類	特徴	留意点
二次情報① 報道 (新聞記事、ウェブのニュース等)	課題を発見するきっかけとなる、あるいは課題が明確化された情報	我々がよく目にする情報で、誰でも簡単に入手できる。 信頼性が低い情報も含まれるので、これのみに依存できない。
二次情報② 論評 (図書、雑誌論文等)	専門家、研究者がその課題を論評・分析している情報	情報検索に慣れた人(図書館員等)なら容易に見つけられる情報。 ある程度信頼性は高いが、一次情報を把握せずに読むと、十分に理解できないおそれもある。
一次情報 (法令・政府情報、統計等)	認識された課題を客観的に裏付ける情報 (事実関係やデータ)	各機関や個人が公表している情報。 内容が必ず正しいとは言えないが、報道や論評を行う際の基礎となる。 これを調べただけでは記事・論文にならないので、研究者でも疎かにしがち。地道な調査を厭わない人だけが把握できる。

(注) 松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会, 1991, pp.152-153、土山希美枝「質問力を上げよう 第2回 あなたの一般質問を政策にたどりつかせるための戦略の話」『議員navi』42号, 2014.3, p.27をもとに作成。

3 諸制度と統計を一次資料・情報にあたって調べるとは

- 一次情報を調べること

報道や論評(他人の言ったこと)を鵜呑みにせず、
自分で事実関係やデータを確認する(「裏をとる」)
作業

➤ 少し手間がかかりますが、それほど難しくありません。

4 諸制度と統計を一次資料・情報にあたって 調べるメリット

- レファレンス担当の図書館員は
玉石混交の情報から正確な情報を把握して案内する「**確かな情報へのナビゲーター**」となれます。
- 研究者・大学院生は
研究成果の質が保たれます。
- 図書館員以外の社会人は
自身や自組織が企画立案した業務が成功する確率が高まります。
- すべての方にとって、仕事の質が向上し、自らの存在価値が高まります。